

令和 2 年度決算報告  
(業務及び財産の状況に関する説明)

株式会社クローバー少額短期保険

# 目 次

I 会社の概要及び組織	2
1. 会社の概要・沿革	2
2. 経営の組織	3
3. 株式の状況	3
4. 役員の状況	4
5. 使用人の状況	4
II 主要な業務の内容	5
1. 取扱商品	5
2. 募集体制	7
III 主要な業務に関する事項	8
1. 直近の事業年度における業務の概要	8
2. 直近の3事業年度における主要な業務の状況を示す指標	8
3. 直近の2事業年度における業務の状況	8
4. 責任準備金の残高の内訳	12
IV 運営に関する事項	13
1. リスク管理の体制	13
2. 法令遵守の体制	13
3. 個人情報の取り扱いについて	13
4. 指定紛争解決機関について	13
5. 反社会的勢力への対応について	14
V 財産の状況に関する事項	15
1. 計算書類	15
(貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、株主資本等変動計算書)	
2. 保険金の支払能力の充実の状況（ソルベンシー・マージン比率）	20
3. 公衆の縦覧に供する書類について会計監査人の有無	20
4. 計算書類に関する会計監査人の監査証明の有無	20

## I 会社の概要及び組織

### 1. 会社の概要・沿革

#### <会社概要>

会社名	株式会社クローバー少額短期保険
会社所在地	〒105-0012 東京都港区芝大門一丁目1番35号 サンセルモ大門ビル
設立	2007年7月19日
資本金	2億円（資本準備金1億円）
事業内容	少額短期保険業
登録日	関東財務局登録 2008年5月30日
登録番号	関東財務局（少額短期保険）第31号
代表者	代表取締役 坂田 寿志
取引銀行	みずほ銀行、三井住友銀行
加盟団体	一般社団法人日本少額短期保険協会

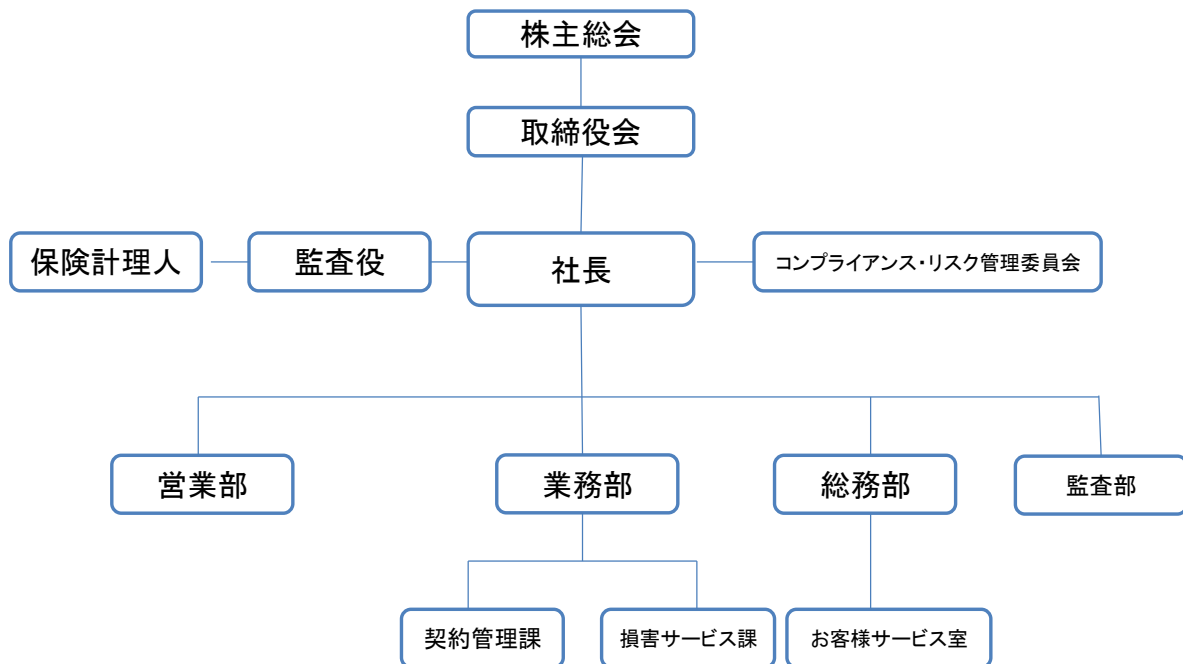
#### <沿革>

2007年 7月	セルモ少額短期準備会社設立
2008年 5月	少額短期保険業として関東財務局に登録 社名を株式会社クローバー少額短期保険に変更
2008年 6月	医療保険の販売を開始
2009年 7月	災害倍額支払定期保険の販売を開始
2010年 3月	医療保険の販売を停止
2010年 11月	事務所を東京都港区浜松町一丁目29番10号 東京ラインビルへ移転
2011年 12月	事務所を東京都港区浜松町一丁目20番8号 浜松町一丁目ビルへ移転
2013年 2月	事務所を東京都港区芝大門一丁目1番35号 サンセルモ大門ビルへ移転
2014年 5月	新契約の第1回保険料収納について、現金扱い を追加した
2014年 12月	医療保険の更新停止（平成26年12月以降）

## 2. 経営の組織

<組織図>

(令和3年3月31日現在)



### (1) 株式数

発行可能株式総数	1,000 株
発行済株式の総数	300 株

### (2) 令和2年度末 株主数 4名

## 3. 株主構成

株主の氏名又は名称	当社への出資状況	
	持株数等	持株比率
(株)セルモ	230 株	76.7%
安田 幸史	35 株	11.7%
(株)サンセルモ	30 株	10.0%
岩上 梨可	5 株	1.7%

#### 4. 役員状況 (令和1年度末)

氏名	地位	担当	重要な兼職
坂田 寿志	代表取締役	経営全般	なし
安田 幸史	取締役(社外)	なし	株式会社サンセルモ 代表取締役社長
岩上 梨可	取締役(社外)	なし	株式会社セルモ 代表取締役社長
丸目光明	取締役(社外)	なし	株式会社サンセルモ 専務取締役

#### 5. 使用人の状況

区分	前期末	当期末	当期増減	令和2年度末現在	
				平均年齢	平均勤続年数
内務職員	4名	3名	△1名	54.6歳	5.3年
営業職員	—	—	—	—	—

## Ⅱ 主要な業務の内容

### 1. 取扱商品

#### (1) 無配当1年更新型災害倍額支払定期保険（保険料建）

##### ① 商品の特徴

- ア) ご加入年齢に関係なく保険料が1,000円、2,000円または3,000円と定額のタイプです。
- イ) 既契約を通算して保険金の総額が300万円までご加入いただけます。
- ウ) 申込後、保障開始後に第1回目の保険料をご指定の金融機関口座からお引去りしますので、ご加入が簡単です。
- エ) 不慮の事故（災害死亡）の場合、病気等（普通死亡）の倍額の保険金をお支払いします。
- オ) 更新後も保険料が変わらず、最長84歳まで更新できる定期保険です。

##### ② 保障内容

◆保険金額別（月払保険料：1,000円・2,000円または3,000円のいずれかを選択）

（保険金額単位：円）

被保険者年齢	男 性			女 性			
	保険料 1,000円	保険料 2,000円	保険料 3,000円	保険料 1,000円	保険料 2,000円	保険料 3,000円	
20歳～24歳	1,373,600	2,747,200	/	1,669,400	/	/	
25歳～29歳	1,373,600	2,747,200		1,631,300			
30歳～34歳	1,344,100	2,688,200		1,618,100			
35歳～39歳	1,259,400	2,518,800		1,538,500			
40歳～44歳	1,111,100	2,222,200		1,420,500			2,841,000
45歳～49歳	939,800	1,879,600	2,819,400	1,297,000	2,594,000		
50歳～54歳	766,300	1,532,600	2,298,900	1,126,100	2,252,200	/	
55歳～59歳	600,600	1,201,200	1,801,800	991,100	1,982,200		2,973,300
60歳～64歳	451,300	902,600	1,353,900	847,500	1,695,000		2,542,500
65歳～69歳	350,400	700,800	1,051,200	669,800	1,339,600		2,009,400
70歳～74歳	236,200	472,400	708,600	474,400	948,800		1,423,200
75歳～79歳	152,100	304,200	456,300	310,900	621,800	932,700	
80歳～84歳	99,700	199,400	299,100	184,300	368,600	552,900	
85歳～89歳	59,900	119,800	179,700	102,600	205,200	307,800	

※更新後の保険金は更新時の年齢により更新されます。  
（新規加入は全タイプ79歳まで。表の網がけ部分は、更新のみ可能です。）

##### ③ 保険期間／加入年齢／払込方法／収納方法

- ア) 保険期間：1年（保険料払込期間と同一）
- イ) 加入年齢：満20歳以上79歳以下
- ウ) 払込方法：月払
- エ) 収納方法：口座振替（毎月27日・金融機関が休日の場合は、翌営業日）

④ 契約更新

保険期間が満了する2か月前までに「更新のご案内」を送付します。契約者から「更新しない旨のお申し出」がない場合には、保険期間の満了日の翌日に、契約は同一の保険期間、同一の保険料額で、その時の健康状態にかかわらず更新されます。

尚、更新は被保険者の年齢が満89歳まで可能です。

更新の際には、新たな告知書の提出は不要です。また、更新後の保険金は更新時の年齢の保険金となります。

(2) 無配当1年更新型災害倍額支払定期保険（保険金建）

① 商品の特徴

ア) ご加入年齢に関係なく保険金が50万円、100万円、200万円または300万円と定額のタイプです。

イ) 保険料建と通算して保険金の総額が300万円までご加入いただけます。

なお、保険金建の場合、同一被保険者の複数加入はできません。(50万円のみ2口可)

ウ) 申込後、保障開始後に第1回目の保険料をご指定の金融機関口座からお引去りしますので、ご加入が簡単です。

エ) 不慮の事故（災害死亡）の場合、病気等（普通死亡）の倍額の保険金をお支払いします。

オ) 更新後も保険金額が変わらず、最長89歳まで必要な保障額を確保できる定期保険です。

② 保障内容

◆保険料別（保険金：50万円・100万円・200万円または300万円のいずれかを選択）

被保険者 年齢	男 性				女 性			
	保険金 50万円	保険金 100万円	保険金 200万円	保険金 300万円	保険金 50万円	保険金 100万円	保険金 200万円	保険金 300万円
20歳～24歳	/	/	1,460円	2,190円	/	/	1,200円	1,800円
25歳～29歳			1,460円	2,190円			1,220円	1,830円
30歳～34歳			1,480円	2,220円			1,240円	1,860円
35歳～39歳			1,580円	2,370円			1,300円	1,950円
40歳～44歳			1,800円	2,700円			1,400円	2,100円
45歳～49歳			2,120円	3,180円			1,540円	2,310円
50歳～54歳			2,620円	3,930円			1,780円	2,670円
55歳～59歳	830円	1,670円	3,340円	5,010円	1,010円	2,020円	3,030円	
60歳～64歳	1,110円	2,220円	4,440円	6,660円	1,180円	2,360円	3,540円	
65歳～69歳	1,430円	2,850円	5,700円	8,550円	750円	1,490円	2,980円	4,470円
70歳～74歳	2,120円	4,230円	8,460円	12,690円	1,050円	2,110円	4,220円	6,330円
75歳～79歳	3,290円	6,580円	13,160円	19,740円	1,610円	3,220円	6,440円	9,660円
80歳～84歳	5,010円	10,030円	20,060円	30,090円	2,710円	5,430円	10,860円	16,290円
85歳～89歳	8,350円	16,690円	33,380円	50,070円	4,870円	9,750円	19,500円	29,250円

に

※更新後の保険料は更新時の年齢により更新されます。  
(新規加入は加入タイプによる※上記一覧表参照。表の網がけ部分は、更新のみ可能です。)

③ 保険期間／加入年齢／払込方法／収納方法

ア) 保険期間：1年（保険料払込期間と同一）

イ) 加入年齢：契約タイプによる ※一覧表参照

ウ) 払込方法：月払

エ) 収納方法：口座振替（毎月27日・金融機関が休日の場合は、翌営業日）

④ 契約更新

保険期間が満了する2か月前までに「更新のご案内」を送付します。契約者から「更新しない旨のお申し出」がない場合には、保険期間の満了日の翌日に、契約は同一の保険期間、同一の保険金額で、その時の健康状態にかかわらず更新されます。

尚、更新は被保険者の年齢が満89歳まで可能です。

更新の際には、新たな告知書の提出は不要です。また、更新後の保険料は更新時の年齢の保険料となります。

## 2. 募集体制

互助会会員募集を主たる目的とする、株主企業である㈱セルモ・㈱サンセルモ（法人募集代理店）および株主企業の委託先の個人募集代理店を中心に、定期保険の販売を行いました。

※令和3年3月末現在、代理店数 111店、募集人数 613名

※募集人研修は、募集人資格試験前、合格後各拠点で半期に一度は集合研修を実施しています。



### Ⅲ 主要な業務に関する事項

#### 1. 直近の事業年度における業務の概要

当社は、平成 20 年 6 月の営業開始から当期で 14 期を終えました。

営業開始からの医療保険の販売に加え、平成 21 年 7 月から定期保険の販売も開始して、お客様のニーズに対応して参りましたが、医療保険を平成 22 年から販売を停止し、定期保険の販売に主力を置いております。その為、商品の内訳が医療保険から大きく定期保険に傾斜して、平成 27 年度末では、保有件数で定期保険が 100.0%となり、医療保険は 27 年 11 月末で全て満了となりました。

当期の新規契約獲得 464 件、年度末契約保有は 5,924 件となり、前期より▲297 件でした。

保険料収入は、90,247 千円（前期比▲6.7%）、保険金支払いは、20,208 千円（前期比+8.7%）となりました。

主な販売先は、親会社である㈱セルモ、㈱サンセルモの互助会会員であり、この商圈をしっかりと見据えて、業績拡大を推進して参ります。

互助会会員の高齢化に伴い若い結婚を迎える年齢層に向けた募集も行っていきます。

さらに募集人を増加して、募集人教育及び顧客管理をきめ細かく行い、コンプライアンス及び個人情報管理の徹底と反社会的勢力との一切の遮断に努めてまいります。

#### 2. 直近の 3 事業年度における主要な業務の状況を示す指標

（単位：金額=千円、増減率=%）

項目	前々期		前期		当期		
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減額 (幅)	増減率
経常収益	98,191	5.1	104,717	6.6	97,716	▲7,001	▲6.7
経常利益	19,747	400.6	29,056	49.4	18,796	▲10,710	▲36.3
当期純利益	13,719	474.5	20,677	50.7	13,053	▲7,624	▲36.9
資本金	200,000	0.0	200,000	0.0	200,000	0	0.0
発行済株式の総数	300 株	0.0	300 株	0.0	300 株	0	0.0
純資産額	360,247	3.9	380,670	5.7	393,451	12,781	3.4
総資産	399,478	6.0	416,108	4.2	418,290	2,182	0.5
責任準備金残高	32,133	27.2	23,587	▲26.6	16,829	▲6,758	▲28.7
有価証券残高	—	—	—	—	—	—	—
ソルベンシー・マージン比率	13,648.9	1.8	14,505.0	6.3	15,428.7	923.7	6.4
配当性向	—	—	—	—	—	—	—
従業員数	5	0	4	0.0	3	▲1	▲25.0
正味収入保険料の額	96,970	7.4	94,792	▲2.2	90,247	▲4,545	▲4.8

### 3. 直近の2事業年度における業務の状況

#### (1) 主要な業務の状況を示す指標等

##### ① 正味収入保険料

(単位：千円)

区 分	令和1年度	令和2年度
生命保険・医療保険	94,792	90,247
定期保険	94,792	90,247
医療保険	—	—
その他	—	—
<b>合 計</b>	<b>94,792</b>	<b>90,247</b>

※正味収入保険料とは、(保険料－解約返戻金－その他返戻金)－(再保険料－再保険返戻金)

##### ② 元受正味保険料

(単位：千円)

区 分	令和1年度	令和2年度
生命保険・医療保険	94,792	90,247
定期保険	94,792	90,247
医療保険	—	—
その他	—	—
<b>合 計</b>	<b>94,792</b>	<b>90,247</b>

※元受正味保険料とは、(保険料－解約返戻金等)

③ 支払再保険料 : 当社は再保険取引を行っておりませんので、該当ありません。

##### ④ 保険引受利益の額

(単位：千円)

区 分	令和1年度	令和2年度
生命保険・医療保険	28,902	18,085
定期保険	28,902	18,085
医療保険	—	—
その他	—	—
<b>合 計</b>	<b>28,902</b>	<b>18,085</b>

※保険引受利益の額は「保険引受収益」から「保険の引受費用」(保険引受けに係る営業費及び一般管理費)を減じ「その他の収支」を加えて算出。

##### ⑤ 正味支払保険金

(単位：千円)

区 分	令和1年度	令和2年度
生命保険・医療保険	18,593	20,208
定期保険	18,593	20,208
医療保険	—	—
その他	—	—
<b>合 計</b>	<b>18,593</b>	<b>20,208</b>

※正味支払保険金とは、(保険金等－回収再保険金)

⑥ 元受正味支払保険金

(単位：千円)

区 分	令和1年度	令和2度
生命保険・医療保険	18,593	20,208
定期保険	18,593	20,208
医療保険	—	—
その他	—	—
<b>合 計</b>	<b>18,593</b>	<b>20,208</b>

⑦ 回収再保険金

当社は再保険取引を行っておりませんので、該当ありません。

(2) 保険契約に関する指標等

① 契約者配当金の額

該当ありません。

② 正味損害率、正味事業費率およびその合算率

(単位：%)

区 分	令和1年度			令和2度		
	正味 損害率	正味 事業費率	合算率	正味 損害率	正味 事業費率	合算率
生命保険・医療保険	19.6	59.7	79.3	22.4	63.6	86.0
定期保険	19.6	59.7	79.3	22.4	63.6	86.0
医療保険	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
<b>合 計</b>	<b>19.6</b>	<b>59.7</b>	<b>79.3</b>	<b>22.4</b>	<b>63.6</b>	<b>86.0</b>

※正味損害率とは、(正味支払保険金 / 正味収入保険料) × 100

※正味事業費率とは、(正味事業費 / 正味収入保険料) × 100

※合算率とは、(正味損害率 + 正味事業費率)

③ 発生損害率、発生事業費率およびその合算率

(単位：%)

区 分	令和1年度			令和2度		
	発生 損害率	発生 事業費率	合算率	発生 損害率	発生 事業費率	合算率
生命保険・医療保険	19.6	59.7	79.3	22.4	63.6	86.0
定期保険	19.6	59.7	79.3	22.4	63.6	86.0
医療保険	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
<b>合 計</b>	<b>19.6</b>	<b>59.7</b>	<b>79.3</b>	<b>22.4</b>	<b>63.6</b>	<b>86.0</b>

※発生損害率とは、(保険金+給付金) / (保険料-解約返戻金-その他返戻金) × 100

※発生事業費率とは、事業費 / (保険料-解約返戻金-その他返戻金) × 100

※合算率とは、(発生損害率 + 発生事業費率)

④ 再保険関係に関する数値

該当ありません。

(3) 経理に関する指標等

① 支払備金

(単位：千円)

区 分	令和1年度			令和2度		
	普通 支払備金	I B N R 支払備金	合 計	普通 支払備金	I B N R 支払備金	合 計
生命保険・医療保険	2,713	168	2,881	3,180	177	3,358
定期保険	2,713	168	2,881	3,180	177	3,358
医療保険	—	—	—	—	—	—
そ の 他	—	—	—	—	—	—
<b>合 計</b>	<b>2,713</b>	<b>168</b>	<b>2,881</b>	<b>3,180</b>	<b>177</b>	<b>3,358</b>

※ I B N R 支払備金とは、既発生未支払備金のことであり、「保険業法施行規則第 211 条の 52 において準用する規則第 73 条第 1 項第 2 号の規定に基づく支払備金として積み立てる金額を定める件（平成 18 年 3 月 10 日金融庁告示第 17 号）」第 2 条の規定により算出。

② 責任準備金

(単位：千円)

区 分	令和1年度				令和2度			
	普通 責任 準備金	異常 危険 準備金	契約者 配当 準備金	責任 準備金	普通 責任 準備金	異常 危険 準備金	契約者 配当 準備金	責任 準備金
生命保険・医療保険	20,264	3,322	—	23,587	13,780	3,049	—	16,829
定期保険	20,264	3,322	—	23,587	13,780	3,049	—	16,829
医療保険	—	—	—	—	—	—	—	—
そ の 他	—	—	—	—	—	—	—	—
<b>合 計</b>	<b>20,264</b>	<b>3,322</b>	<b>—</b>	<b>23,587</b>	<b>13,780</b>	<b>3,049</b>	<b>—</b>	<b>16,829</b>

③ 利益準備金及び任意積立金の区分ごとの残高

該当ありません。

④ 損害率上昇に対する経常利益又は経常損失の額の変動

損害率上昇の仮定	発生損害率が 1% 上昇すると仮定します。
計算方法	<p>増加する発生損害額 (<math>\Delta S</math>) = 既経過営業保険料 <math>\times</math> 1%</p> <p>増加する IBNR 支払備金 (<math>\Delta IBNR</math>)</p> <p style="padding-left: 20px;">= <math>\Delta S \times</math> (前年度の既発生未報告支払備金積立所要額)</p> <p style="padding-left: 20px;"><math>\div</math> (前年度支払保険金等<sup>※</sup> + 前年度普通支払備金<sup>※</sup>)</p> <p style="text-align: right; padding-right: 20px;"><small>※当年度内に発生した保険事故に限る。</small></p> <p>経常損失の増加額 = <math>\Delta S + \Delta IBNR</math></p>

経常損失の増加額	令和1年度	令和2年度
		972千円

#### (4) 資産運用に関する指標等

##### ① 資産運用の概要

(単位：残高=千円、構成割合=%)

区 分	令和1年度		令和2年度	
	残 高	構成割合	残 高	構成割合
現 預 金	387,546	93.1	391,291	93.5
金 銭 信 託	—	—	—	—
有 価 証 券	—	—	—	—
運用資産計	387,546	93.1	391,291	93.5
<b>総 資 産</b>	<b>416,108</b>	<b>100.0</b>	<b>418,290</b>	<b>100.0</b>

##### ② 利息配当収入の額および運用利回り

(単位：金額=千円、運用利回り=%)

区 分	令和1年度		令和2年度	
	金 額	運用利回り	金 額	運用利回り
現 預 金	4	0.001%	4	0.001%
金 銭 信 託	—	—	—	—
有 価 証 券	—	—	—	—
<b>小 計</b>	<b>4</b>	<b>0.001%</b>	<b>4</b>	<b>0.001%</b>
そ の 他	—	—	—	—
<b>合 計</b>	<b>4</b>	<b>0.001%</b>	<b>4</b>	<b>0.001%</b>

③ 保有有価証券の種類別の残高および合計に対する構成比  
該当ありません。

④ 有価証券利回り  
該当ありません。

#### 4. 責任準備金の残高の内訳

(単位：千円)

区 分	令和2年度			
	普通 責任準備金	異常 危険準備金	契約者 配当準備金	責任準備金 合計
生命保険・医療保険	13,780	3,050	—	16,830
定期保険	13,780	3,050	—	16,830
医療保険	—	—	—	—
そ の 他	—	—	—	—
<b>合 計</b>	<b>13,780</b>	<b>3,050</b>	<b>—</b>	<b>16,830</b>

## IV運営に関する事項

### 1. リスク管理の体制

当社は、管理すべきリスクを、保険引受リスク、資産運用リスク、流動性リスク、事務リスク、システムリスク、危機管理体制の整備、その他重要なリスクに分類し、リスク管理委員会が管理上の課題の審議・承認及び取締役会への上程・報告し、各担当部門に対する指導の徹底を図っております。

### 2. 法令遵守の体制

当社では、営業開始時よりコンプライアンス・リスク管理委員会を設置し、法令等遵守意識の徹底を図ってまいりました。具体的には、少額短期保険募集人登録前研修制度を設け、研修受講を募集人登録の要件としています。

各部署の部長をメンバーとし、取締役会の下に設置、報告等を行っております。

### 3. 個人情報の取り扱いについて

当社は、お客様の個人情報保護の重要性を認識し、お客様に対してご満足いただける商品、サービスを提供していく上でお客様の個人情報を適正に取り扱うとともに、安全管理について適切な措置を講ずるため、個人情報保護に関する基本方針を以下のとおり定め、これを遵守、実行いたしております。

#### ① 法令等の遵守

当社は、個人情報を取り扱う際に、個人情報保護に関する法律、個人情報保護に関する諸法令、国が定めたガイドラインにおける義務およびプライバシーを遵守します。

#### ② 個人情報の取得について

当社は、適法で公正な手段により、業務上必要な範囲内で個人情報を取得します。

#### ③ 取得する個人情報の種類

保険契約のお引受け等に必要な情報として、お客様のお名前、住所、生年月日、性別等、お客様に関する必要最小限の個人情報を取得いたします。また、当社が提供する各種サービスに関連し、必要な情報のご提出をお願いする場合があります。

### 4. 指定紛争解決機関について

当社は、お客様からの商品・サービス等に関するご意見・苦情等のお申し出に際しましては、解決に向けて真摯な対応に努める所存でございます。なお、お客様の必要に応じ、当社加入協会（一般社団法人日本少額短期保険協会）の指定紛争解決機関「少額短期ほけん相談室」をご利用いただく事もできますので、あわせてお知らせ申し上げます。

下記ご参照ください。

<指定紛争解決機関>

一般社団法人日本少額短期保険協会 「少額短期ほけん相談室」

電 話 (フリーダイヤル) : 0 1 2 0 - 8 2 - 1 1 4 4

F A X : 0 3 - 3 2 9 7 - 0 7 5 5

受付時間 : 9 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0、1 3 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0

受付日 : 月曜日から金曜日 (祝日および年末年始休業期間を除く)

## 5. 反社会的勢力への対応について

当社は、市民社会の秩序や安全に脅威を与え、健全な経済・社会の発展を妨げる反社会的勢力に対する基本方針を以下の通り定めております。

### ① 取引を含めた一切の関係遮断

当社は、反社会的勢力とは取引を含めた一切の関係を遮断し、不当要求に対しては断固として拒絶します。

### ② 組織としての対応

当社は、反社会的勢力に対しては、対応する社員の安全を確保しつつ組織全体として対応し、迅速な問題解決に努めます。

### ③ 有事における民事と刑事の法的対応

当社は、反社会的勢力からの不当要求には一切応じず、民事・刑事の両面から法的対応を行います。

### ④ 裏取引や資金提供の禁止

当社は、反社会的勢力に対しては、裏取引や資金提供および便宜供与は絶対に行いません。

### ⑤ 外部専門機関との連携

当社は、反社会的勢力による不当要求に備えて、平素から警察、暴力追放運動推進センター、弁護士などの外部専門機関との連携強化を図ります。

V財産の状況に関する事項

1. 計算書類

(1) 貸借対照表

令和2年度(3年3月31日現在)

(単位:千円)

科 目	R1	R2	科 目	R1	R2
(資産の部)			(負債の部)		
現金及び預貯金	387,546	391,291	保険契約準備金	26,468	20,188
現金	—	—	支払備金	2,881	3,358
預貯金	387,546	391,291	責任準備金	23,587	16,830
有価証券	—	—	代理店借	—	—
国債	—	—	再保険借	—	—
地方債	—	—	短期社債	—	—
その他の証券	—	—	社債	—	—
有形固定資産	602	464	新株予約権付社債	—	—
土地	—	—	その他負債	12,291	7,700
建物	—	—	借入金	—	—
リース資産	—	—	未払法人税等	7,099	1,666
建設仮勘定	—	—	未払金	4,918	5,830
その他の有形固定資産	602	464	未払費用	—	—
無形固定資産	3,595	2,400	前受収益	—	—
ソフトウェア	3,595	2,400	預り金	273	204
のれん	—	—	リース債務	—	—
リース資産	—	—	仮受金	—	—
その他の無形固定資産	—	—	その他の負債	—	—
代理店貸	—	—	退職給付引当金	—	—
再保険貸	—	—	その他の引当金	—	—
その他資産	8,405	8,255	価格変動準備金	—	—
未収金	7,400	7,042	繰延税金負債	—	—
未収保険料	—	—	負ののれん	—	—
前払費用	—	—	負債の部 合計	38,760	27,889
未収収益	—	—			
仮払金	—	—	(純資産の部)		
その他の資産	1,005	1,213	資本金(①)	200,000	200,000
繰延税金資産	958	880	新株式申込証拠金	—	—
供託金	15,000	15,000	資本剰余金(②)	100,000	100,000
			資本準備金	100,000	100,000
			その他資本剰余金	—	—
			利益剰余金(③)	77,348	90,402
			利益準備金	—	—
			その他利益剰余金	77,348	90,402
			積立金	—	—
			繰越利益剰余金	77,348	90,402
			自己株式(④)	—	—
			自己株式申込証拠金(⑤)	—	—
			株主資本合計(①～⑤)	377,348	390,402
			その他有価証券評価差額金	—	—
			繰延ヘッジ損益	—	—
			土地再評価差額金	—	—
			評価・換算差額等合計	—	—
			新株予約権	—	—
			純資産の部 合計	377,348	390,402
資産の部 合計	416,108	418,290	負債及び純資産の部 合計	416,108	418,290



## (2) 損益計算書

自令和2年4月1日～至令和3年3月31日

(単位：千円)

科 目	令和1年度	令和2年度
<b>経常収益</b>	<b>104,717</b>	<b>97,716</b>
<b>保険料等収入</b>	<b>94,792</b>	<b>90,247</b>
保険料	94,792	90,247
再保険収入	—	—
回収再保険金	—	—
再保険手数料	—	—
再保険返戻金	—	—
<b>支払備金戻入額</b>	<b>774</b>	<b>0</b>
<b>責任準備金戻入額</b>	<b>8,546</b>	<b>6,757</b>
<b>資産運用収益</b>	<b>4</b>	<b>4</b>
利息及び配当金等収入	4	4
その他運用収益	—	—
<b>その他経常収益</b>	<b>600</b>	<b>708</b>
<b>経常費用</b>	<b>75,211</b>	
<b>保険金等支払金</b>	<b>18,593</b>	<b>20,209</b>
保険金等	18,593	20,209
解約返戻金等	—	—
契約者配当金	—	—
再保険料	—	—
<b>責任準備金等繰入額</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
支払備金繰入額	—	476
責任準備金繰入額	—	—
資産運用費用	—	—
<b>事業費</b>	<b>56,618</b>	<b>57,437</b>
営業費及び一般管理費	55,046	55,873
税金	261	114
減価償却費	1,310	1,450
退職給付引当金繰入額	—	—
<b>その他経常費用</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
<b>経常利益（又は経常損失）</b>	<b>29,506</b>	<b>18,796</b>
<b>特別利益</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
<b>特別損失</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
価格変動準備金繰入額	—	—
その他特別損失	—	—
<b>契約者配当準備金繰入額</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
<b>税引前当期純利益（又は税引前当期純損失）</b>	<b>29,506</b>	<b>18,796</b>
<b>法人税等合計</b>	<b>8,829</b>	<b>8,829</b>
法人税及び住民税	8,754	5,665
法人税等調整額	74	78
<b>当期純利益（又は当期純損失）</b>	<b>20,677</b>	<b>13,053</b>

## (3) キャッシュ・フロー計算書

自令和2年4月1日～至令和3年3月31日

(単位：千円)

科 目	令和1年度	令和2年度
◎営業活動によるキャッシュ・フロー		
保険料の収入	95,047	90,677
再保険収入	—	—
保険金等支払による支出	△18,593	△20,208
解約返戻金等支払による支出	—	—
再保険料支払による支出	—	—
事業費の支出	△56,468	△55,630
その他	—	—
小 計	19,986	14,839
利息及び配当金等の受取額	4	4
利息の支払額	—	—
契約者配当金の支払額	—	—
受託手数料収入	—	—
その他	—	—
法人税等の支払額	△4,457	△11,098
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,533	3,745
◎投資活動によるキャッシュ・フロー	—	—
預貯金の純増減額（△は増加）	—	—
有価証券の取得による支出	—	—
有価証券の売却・償還による収入	—	—
その他	—	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	—	—
◎財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—
借入れによる収入	—	—
借入金の返済による支出	—	—
社債の発行による収入	—	—
株式の発行による収入	—	—
自己株式の取得による支出	—	—
配当金の支払額	—	—
その他	—	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	15,533	3,745
現金及び現金同等物期首残高	372,013	387,546
現金及び現金同等物期末残高	387,546	391,291

## (4) 株主資本等変動計算書

自令和2年4月1日～至令和3年3月31日

(単位：千円)

科 目	令和1年度	令和2年度
<b>株主資本</b>	<b>377,348</b>	<b>390,402</b>
<b>資本金</b>	<b>200,000</b>	<b>200,000</b>
前期末残高	200,000	200,000
当期変動額	—	—
当期変動額合計	—	—
当期末残高	<b>200,000</b>	<b>200,000</b>
<b>資本剰余金</b>	<b>100,000</b>	<b>100,000</b>
<b>資本準備金</b>	<b>100,000</b>	<b>100,000</b>
前期末残高	100,000	100,000
当期変動額	—	—
当期変動額合計	—	—
当期末残高	<b>100,000</b>	<b>100,000</b>
<b>利益剰余金</b>	<b>77,348</b>	<b>90,402</b>
<b>その他利益剰余金・繰越利益剰余金</b>	<b>77,348</b>	<b>90,402</b>
前期末残高	56,671	77,348
当期変動額	—	—
当期純利益	20,677	13,054
過年度税効果調整額	—	—
当期変動額合計	20,677	13,054
当期末残高	<b>77,348</b>	<b>90,402</b>
<b>株主資本合計</b>	<b>377,348</b>	<b>390,402</b>
前期末残高	356,671	377,348
当期変動額	—	—
当期純利益	20,677	13,054
過年度税効果調整額	—	—
当期変動額合計	20,677	13,054
当期末残高	<b>377,348</b>	<b>390,402</b>
<b>純資産合計</b>	<b>377,348</b>	<b>390,402</b>
前期末残高	356,671	377,348
当期変動額	—	—
当期純利益	20,677	13,054
過年度税効果調整額	—	—
当期変動額合計	20,677	13,054
当期末残高	<b>377,348</b>	<b>390,402</b>

## 個別注記表

自令和2年4月1日～至令和3年3月31日

### I 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 棚卸資産の評価基準および評価方法  
最終仕入原価方法
2. 固定資産の減価償却の方法  
有形固定資産 : 法人税法の規定による定率法  
無形固定資産 : 法人税法の規定による定額法
3. 引当金の計上基準  
賞与引当金については、従業員の夏季賞与支給に備えるため、支給見込額の当期負担分を計上しています。
4. その他計算書類の作成のための基本となる重要事項  
消費税等の会計処理は、税込方式によっています。
5. 価格変動準備金  
該当項目はありません。

### II 貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額	3,585 千円
2. 関係会社に対する金銭債権	579 千円
3. 関係会社に対する金銭債務	3,358 千円

### III 損益計算書に関する注記

1. 収益および費用に関する内訳	
①正味収入保険料の内訳	
正味収入保険料	90,247 千円
②支払備金戻入額	0 千円
③正味支払保険金の内訳	
正味支払保険金	20,209 千円
2. 利息および配当金等収入の内訳	
普通預金利息	4 千円

### IV キャッシュ・フロー計算書に関する注記

1. 現金および現金同等物の範囲は、預貯金です。

### V 株主資本等変動計算書に関する注記

1. 当該事業年度の末日における発行済み株式の数 300 株
2. 財務諸表規等の用語、株式及び作成方法に関する規則第 106 条から第 109 条までの規定には該当しません。

### VI 一株当たり情報に関する注記

1. 一株当たりの純資産額	1,394,300.83 円
2. 一株当たりの当期純利益金額	43,511.75 円

## 2. 保険の支払能力の充実の状況（ソルベンシー・マージン比率）

保険金等の支払能力の充実の状況を示す比率（ソルベンシー・マージン比率）

（単位：千円）

項 目	前 期	当 期
(1) ソルベンシー・マージン総額	380,670	393,451
① 純資産の部合計（社外流出予定額、評価・換算差額等及び繰延資産を除く。）	377,348	390,401
② 価格変動準備金	—	—
③ 異常危険準備金	3,322	3,049
④ 一般貸倒引当金	—	—
⑤ その他有価証券の評価差額（税効果控除前）（99%又は100%）	—	—
⑥ 土地含み損益（85%又は100%）	—	—
⑦ 契約者配当準備金の一部（除、翌期配当所要額）	—	—
⑧ 将来利益	—	—
⑨ 税効果相当額	—	—
⑩ 負債性資本調達手段等	—	—
告示(第14号)第2条第3項第5号イに掲げるもの(⑩(a))	—	—
告示(第14号)第2条第3項第5号ロに掲げるもの(⑩(b))	—	—
⑪ 控除項目（－）	—	—
(2) リスクの合計額 $\sqrt{(R1^2 + R2^2)} + (R3 + R4)$	5,248	5,100
保険リスク相当額	3,322	3,049
R1：一般保険リスク相当額	3,322	3,049
R4：巨大災害リスク相当額	—	—
R2：資産運用リスク相当額	3,875	3,912
価格変動等リスク相当額	—	—
信用リスク相当額	3,875	3,912
子会社等リスク相当額	—	—
再保険リスク相当額	—	—
再保険回収リスク相当額	—	—
R3：経営管理リスク相当額	143	139
ソルベンシー・マージン比率 $(1) \div \{(1/2) \times (2)\}$	14505.0%	15,428.7%

## 3. 公衆の縦覧に供する書類について会計監査人の有無

当社は監査人の監査は受けておりません。

## 4. 計算書類に関する会計監査人の監査証明の有無

金融商品取引法第193条の2の規定に基づく監査法人の監査は受けておりません。